

# 事業報告書

令和4年度(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

## 1 農作物共済関係

### 【引受概況】

水 稲

引受面積：全引受方式に係る引受面積は、1,843,796.3aで前年産引受面積2,141,140.5aに対し、297,344.2aの減(86.1%)となった。

引受率：農林水産省発表の作付面積29,000haに対する引受率は、63.6%であった。

引受収量：全相殺方式・半相殺方式・インデックス方式の総引受収量は81,597,466kgで、平均実行単収は506kgとなった。

基準生産金額等：品質方式の基準生産金額は396,999,719円となる。

単位当たり共済金額：全相殺方式・半相殺方式・インデックス方式の1kg当たりの平均は194円となった。

麦(令和4年産)

引受面積：引受面積は421,745.8aで、前年産引受面積486,467.8aに対し、64,722.0aの減(86.7%)となった。

引受率：農林水産省発表の4年産作付面積8,180haに対して、51.6%であった。

基準生産金額等：災害収入共済方式の基準生産金額は1,645,228,769円となる。

(引受)

年産	共済目的	引受方式	組合員数 人	引受面積 a	共済金額 円	徴収共済掛金 (A) 円	交付金又は 納入保険料 (B) 円	手持共済掛金 (A)±(B) 円
4年産	水稲	地域インデックス方式	11,323	1,498,730.3	13,833,211,490	5,539,218	6,813,995	15,195,992
		全相殺方式	1,125	207,099.1	1,711,229,236	2,291,558		
		半相殺方式	547	95,047.1	273,377,128	147,875		
		品質方式	177	42,919.8	357,299,673	403,346		
	麦	災害収入共済方式	633	421,745.8	1,473,249,470	32,099,036	6,423,479	38,522,515
	計		実 12,783 延 13,805	2,265,542.1	17,648,366,997	40,481,033	13,237,474	53,718,507
5年産	麦	災害収入共済方式	実 577	397,329.0	1,493,825,929	31,582,517	6,312,631	37,895,148
			延 587					

水 稲

### 【被害概況】

気象被害については、田植期以降5月中旬の日照不足や6月中下旬の高温の影響により穂数は湖南で「やや少ない」となった。しかし、滋賀県全体では「平年並み」となった。

8月4日から5日にかけての大雨及び9月の台風11号、14号の影響で県下全域で倒伏の被害が発生した。8月5日朝に長浜市高時川が氾濫し、余呉町上丹生、木之本町古橋、高月町馬上で土砂流入などの被害が発生した。

獣害に関しては、県下山間部においてイノシシ、シカ、サルによる踏み倒し及び食害の被害が発生した。昨年と比べ被害が増加した。

病害については、8月下旬以降の低温・寡照により主に高島地域・湖北地域で穂いもちが発生した。

【評価の概要】

令和4年産より、引受方式が一筆方式から全相殺方式、半相殺方式、インデックス方式、品質方式に移行したことから、評価については半相殺方式および一筆全損特例、一筆半損特約の被害申告筆の現場確認を各支所で実施した。また、半相殺方式以外の分割評価等の見回り評価についても各支所で実施した。本所損害評価会委員による県下作況見回り調査を8月25日(早期品種)、9月16日(中生・普通期品種)に実施した。

麦(令和4年産)

【被害概況】

11月下旬の降雨並びにその後の降雪により土壌が湿潤状態となり、根の生育が阻害され生育不良となった圃場が見受けられた。

県北部において例年に比べ積雪期間が長かったため、根雪となったところでは根腐れが発生した。

2月から3月にかけて、縮萎縮病による葉の黄化が散見された。一部で黒節病、5月の多雨により赤かび病の発生も見受けられたが被害は軽微であった。

山間地域では、出芽期から鹿による食害や湖辺部や河川に近い圃場で野鳥(オオバン)による食害が一部圃場で発生した。

【評価の概要】

収穫皆無被害耕地については、7戸、329.7a確認した。(災害収入共済方式の支払いと重複する農家があるため、一筆全損特例のみでの支払いは2戸、86.7a)

また、本所損害評価会委員による県下作況見回り調査を5月13日(大麦)、6月3日(小麦)に実施した。

(被害)

共済目的	引受方式	被害組合員数 人	共 済 金 円	共 済 金	
				共 済 金 円	共 済 金 額 %
水 稻	地域インデックス方式	213	23,411,390		0.17
	全相殺方式	199	13,580,408		0.79
	半相殺方式	12	622,784		0.23
	品質方式	29	2,784,742		0.78
麦	災害収入共済方式	112	26,910,986		1.83
計		565	67,310,310		0.38

(支払)

共 済 目 的	支 払 月 日	実 支 払 共 済 金 円	共 済 金 支 払 財 源					実 支 払 共 済 金 共 済 金 額
			保 険 金 円	手 持 掛 金 充 当 額 円	法 定 積 立 金 充 当 額 円	特 別 積 立 金 充 当 額 円	そ の 他 円	
水 稻	令和4年12月26日	25,853,799		15,195,992	/			0.25
水 稻	令和5年5月1日	14,545,525						
麦	令和4年12月26日	26,910,986		26,910,986	/			1.83
計		67,310,310	-	42,106,978	25,203,332	-	-	0.38

## 2 家畜共済関係

### 【引受概要】

引受戸数は死亡廃用共済で82戸、疾病傷害共済で102戸となった。引受頭数は死亡廃用共済の搾乳牛2,107頭、繁殖用雌牛1,716頭、育成乳牛735頭、育成・肥育牛24,413頭、育成・肥育馬12頭で合計28,983頭であり、共済金額合計は1,555,728万円となった。疾病傷害共済では乳用牛が2,450頭、肉用牛が20,417頭、一般馬が8頭で、合計頭数は22,875頭であり、共済金額合計は18,565万円であった。本年度の廃業は7戸であり、新規加入者は1戸となった。

区分	項目	有資格 頭数 頭	事業計画 頭数 頭	引受頭数 頭	引受頭数	共済金額 円
					事業計画頭数 %	
死 廃 用 共 済	搾乳牛	2,002	2,164	2,107	97	862,311,300
	繁殖用雌牛	1,562	1,752	1,716	98	855,198,360
	育成乳牛 (子牛等)	530	843	735	87	272,927,760
	育成・肥育牛 (子牛等)	19,699	24,118	24,413	101	13,561,640,320
	繁殖用雌馬	0	0	0	-	0
	育成・肥育馬	8	12	12	100	5,205,200
	種豚	64	0	0	-	0
	肉豚	1,446	0	0	-	0
	計	25,311	28,889	28,983	100.3	15,557,282,940
	疾 病 傷 害 共 済	乳用牛	2,532	2,615	2,450	94
肉用牛		21,261	20,059	20,417	102	144,423,112
一般馬		8	9	8	89	80,000
種豚		64	0	0	-	0
計		23,865	22,683	22,875	100.8	185,651,637
合 計	49,176	51,572	51,858	100.6	15,742,934,577	

区分	項目	徴収	納入保険料	交付金	手持
		共済掛金 円			共済掛金 円
死 廃 用 共 済	搾乳牛	5,944,295			
	繁殖用雌牛	1,902,132			
	育成乳牛 (子牛等)	547,105			
	育成・肥育牛 (子牛等)	51,538,485			
	繁殖用雌馬	0			
	育成・肥育馬	179,553			
	種豚	0			
	肉豚	0			
	計	60,111,570			
	年度内期末調整	0			
疾 病 傷 害 共 済	乳用牛	10,243,875			
	肉用牛	20,285,516			
	一般馬	35,253			
	種豚	0			
	計	30,564,644			
合 計	90,676,214	-	83,752,873	174,429,087	

【 事故の概要 】

(死廃事故)

死廃事故総頭数は385頭で、支払共済金は9,810万円であった。搾乳牛の死廃事故頭数は102頭で、支払共済金は2,168万円となった。繁殖用雌牛の死廃事故頭数は11頭で、支払共済金は261万円であった。育成乳牛の死廃事故頭数は20頭で、支払共済金は253万円となった。育成・肥育牛の死廃事故頭数は250頭で、支払共済金は7,076万円となった。育成・肥育馬の死廃事故頭数は2頭で、支払共済金は52万円であった。

前年度実績と比較して頭数、支払共済金共に47頭、609万円の増加となった。特に搾乳牛の運動器病に係る廃用事故が増加した。

(病傷事故)

病傷事故件数は14,663件で、支払共済金は13,458万円であった。乳用牛の病傷事故件数は2,442件で、支払共済金は3,052万円となった。肉用牛の病傷事故件数は12,219件、支払共済金は10,404万円となった。

前年度給付実績と比較して件数、支払共済金共に193件、96万円の増加となった。事故病類の第1位は呼吸器病、第2位は消化器病、第3位は生殖器病であった。

区分	死 廃 事 故			
	死亡頭数	廃用頭数	総頭数	支 払 共 済 金
搾乳牛	54	48	102	21,682,665
繁殖用雌牛	4	7	11	2,611,409
育成乳牛 (子牛等)	1 17	2	20	2,532,674
育成・肥育牛 (子牛等)	108 96	46	250	70,755,994
繁殖用雌馬				
育成・肥育馬	2		2	516,600
種 豚				
肉 豚				
計	282	103	385	98,099,342

区分	疾 病 傷 害 共 済	
	件 数	支 払 共 済 金
乳 用 牛	2,442	30,517,640
肉 用 牛	12,219	104,044,725
一 般 馬	2	21,708
種 豚		
計	14,663	134,584,073

(診療所)

診療所名	職員数 人	管 内		診 療 件 数		損 害 防 止 事 業		
		有資格 頭数 頭	加 入 頭数 頭	共済事故 頭	事故外 件	一 般 頭(回)	特 損 頭(回)	経費概算 円
家畜診療所	14	23,865	22,875	13,334	34,821	18,833	171	4,406,802

### 3 果樹共済関係

#### 【引受概況】

ぶどう

引受面積：引受面積は78.6aで、前年産引受面積195.8aに対し117.2aの減(40.1%)となった。

引受率：農林水産省発表の結果樹面積(令和4年産)51haに対する引受率は1.5%であった。

標準収穫量：標準収穫量は10,401kgで前年産標準収穫量26,303kgに対し39.5%で、平均単位当たり標準収穫量は1,323kg、標準収穫金額は7,990,620円となり、平均単位当たり価格は768円となった。

なし

引受面積：引受面積は179.8aで、前年産引受面積183.4aに対し3.6aの減(98.0%)となった。

引受率：農林水産省発表の結果樹面積(令和4年産)45haに対する引受率は4.0%であった。

標準収穫量：標準収穫量は26,626kgで前年産標準収穫量29,030kgに対し91.7%で、平均単位当たり標準収穫量は1,481kg、標準収穫金額は13,560,874円となり、平均単位当たり価格は509円となった。

(引受) 収穫共済・半相殺減収総合一般方式

年産	共済目的	組合員数 人	引受面積 a	共済金額 円	徴収共済掛金 (A) 円	交付金又は 納入保険料 (B) 円	手持共済掛金 (A)±(B) 円
4年産	ぶどう	8	195.8	13,757,000	327,199	/	/
	なし	7	183.4	9,007,000	233,869		
	計	15	379.2	22,764,000	561,068	(納) 96,483	464,585
5年産	ぶどう	3	78.6	5,591,000	76,724	/	/
	なし	7	179.8	9,485,000	185,226		
	計	10	258.4	15,076,000	261,950	(交) 51,278	313,228

ア ぶどう

#### 【被害概況】

発芽は平年並～やや遅くなったが、その後の気温が高く平年並みの開花となった。ジベレリン処理後、6月の気温は平年並～高く推移し、生育は順調であったが6月下旬の高温により、果房に日焼けや縮果症が発生した。7月は雨が多く、べと病の発生が多く見られたが、収量に影響は無かった。梅雨明け後は一転して高温が続き、特に夜温が高くなり着色が遅れ、一部品種で着色不良が発生した。9月19日の台風14号の影響で一部園地で落果が見られ減収となった。

#### 【評価の概要】

台風14号の影響による被害申告があり、農家申告抜取調査を9月20日に1園地実施した。本所損害評価会委員による県下作況見回り調査を7月26日に行った。

イ なし

【被害概況】

3月中旬から4月にかけて急激に暖くなったことから、萌芽・展葉は平年並～やや早くなった。4月の開花期の天候は安定し、結実は良好となった。その後平年並みの気温で適度に降雨もあり順調に生育し、果実は肥大した。6月下旬の小雨、高温によりハダニが多発し、葉焼けが発生した。春先からカメムシの発生が多く、防虫ネットの被覆が遅れた園で被害が発生した。梅雨明けが遅れ、一部で収穫前の成熟果に黒星病が発生した。また、シンクイムシ類の被害も一部で発生した。9月19日の台風14号の影響で一部園地で落果が見られた。

【評価の概要】

病虫害の被害が一部で発生したが、全体的に収穫量は確保できており、被害申告はなかった。

(被害)

共済目的	被害組合員数 人	共 済 金 円	共済金 共済金額	
				%
ぶどう	1	235,980		1.72
なし	-	-		-
計	1	235,980		1.04

(支払)

共済目的	支払月日	実支払 共済金 円	共 済 金 支 払 財 源					実支払 共済金 共済金額 %
			保 険 金 円	手持掛金 充当額 円	法定積立 金充当額 円	特別積立 金充当額 円	その他 円	
ぶどう	令和5年1月30日	235,980	-	235,980	-	-	-	/
なし	-	-	-	-	-	-	-	
計	-	235,980	-	235,980	-	-	-	

#### 4 畑作物共済関係

##### 【引受概況】

大豆〔半相殺方式、全相殺方式〕・小豆〔半相殺方式〕

##### 引受面積

大豆：引受面積は282,405.2aで前年産引受面積333,581.5aに対し、51,176.3aの減(84.7%)となった。

小豆：引受面積は739.7aで前年産引受面積2,813.3aに対し、2,073.6aの減(26.3%)となった。

##### 引受率

大豆：農林水産省発表の作付面積6,800haに対する引受率は、41.5%であった。

小豆：農林水産省発表の作付面積180haに対する引受率は、4.1%であった。

##### 引受収量

大豆：総引受収量は3,208,401kg、平均実行単収は129kgで県指示単収125kgに対し、103.2%の実行率となった。

小豆：総引受収量は3,538kg、平均実行単収は68kgで県指示単収75kgに対し、90.7%の実行率となった。

##### 単位当たり

##### 共済金額

大豆：1kg当たりの平均231円で、前年産の240円に対して9円の減となった。

大豆1類：交付農業者	310円	対前年産	311円
交付農業者以外	144円	対前年産	146円
種子	504円	対前年産	503円
大豆2類：	964円	対前年産	968円
大豆3類：	392円	対前年産	399円

小豆：1kg当たりの平均947円で、前年産957円に対して10円の減となった。

(引受)

年産	項目	組合員数 人	引受面積 a	共済金額 円	徴収共済掛金 (A) 円	交付金又は 納入保険料 (B) 円	手持 共済掛金 (A)±(B) 円
	区分						
4 年 産	半相殺方式 (大豆)	231	50,920.3	218,297,836	7,471,964	/	/
	半相殺方式 (小豆)	8	739.7	3,350,486	121,333		
	全相殺方式 (大豆)	332	231,484.9	523,612,704	13,686,027		
	計	延 実	571 526	283,144.9	745,261,026	21,279,324	16,548,530

【被害概況】

大豆

6月に播種されたほ場では、出芽・苗立ちは良好であったが、7月上旬から中旬に播種された一部の圃場では、降雨による出芽不良が一部のほ場でみられた。7月中旬から8月上旬にかけて高温多照で周期的に降雨があったため、生育は良好であった。

7月下旬に播種されたほ場では出芽・苗立ちは良好であったが、少雨の影響で出芽揃いの悪いほ場や8月中旬の大雨により浸水し、著しい湿害被害を受けたほ場では生育不良が見られた。

病害虫の発生は7月下旬と8月下旬の気温が高く、カメムシ類の発生が多くなった。また、一部のほ場でハスモンヨトウやべと病の発生が見られた。

湿害やカメムシ被害を受けたほ場では、青立ちの発生が見られ大きな被害となったほ場もみられた。獣害については山間部の一部圃場で防護柵及びネットにより対策は講じていたが、鹿・猿・猪による食害が発生した。

小豆

全般的に発芽が良好で初期生育は順調であったが、8月中旬の大雨の影響により浸水及び排水が悪く滞水したほ場では、土壌湿潤害による欠株につながった。しかし、その後の生育は概ね良好であった。

【評価の概要】

大豆

半相殺大豆の悉皆調査は10月25日～12月12日にかけて240筆、収穫皆無は1筆、すき込み・転作は6筆、発芽不能はなかった。全相殺大豆と合わせての県下見回り調査は10月25日・11月18日に実施した。

小豆

悉皆調査を11月7日～12月9日にかけて12筆行った。

(被害)

区分	項目	被害組合員数 人	共 済 金 円	共 済 金	
				共済金額	%
	半相殺方式(大豆)	32	3,422,476		1.57
	半相殺方式(小豆)	2	82,389		2.46
	全相殺方式(大豆)	55	14,965,902		2.86
計	延	89	18,470,767		2.48
	実	85			

(支払)

区分	項目	支払月日	共 済 金 支 払 財 源					実支払 共済金 円	共済金額 %
			実支払 共済金 円	保険金 円	手持掛金 充当額 円	法定積立 金充当額 円	特別積立 金充当額 円		
	半相殺方式 (大豆)	令和5年3月10日	3,422,476						
	半相殺方式 (小豆)	令和5年3月10日	82,389						
	全相殺方式 (大豆)	令和5年4月28日	14,965,902						
計			18,470,767	-	18,470,767	-	-	-	2.48

## 5 園芸施設共済関係

### 【引受】

引受棟数 前年度引受棟数2,703棟に対し、2,838棟で対前年比104.9%であった。

共済金額 前年度引受共済金額4,185,381千円に対し、4,370,950千円で対前年比104.4%であった。

共済掛金 共済掛金総額は52,442,890円で、このうち国庫負担額が24,227,420円、保険料は及び保険料 16,739,262円であった。

### 施設区分別引受状況

施設区分	項目	組合員数 人	引受棟数 棟	引受面積 ㎡	共済価額 千円	共済金額 千円
ガラス室Ⅰ類 (木造)		1	2	912	7,687	6,149
ガラス室Ⅱ類 (鉄骨)		38	57	83,898	1,206,405	1,119,275
プラスチックハウスⅠ類 (木竹)		3	5	1,552	3,747	2,758
プラスチックハウスⅡ類 (パイプ)		1,091	2,585	725,182	2,586,678	2,183,005
プラスチックハウスⅢ類 (鉄骨下)		27	31	23,167	107,383	95,690
プラスチックハウスⅣ類(甲) (鉄骨中)		23	33	21,978	224,822	187,835
プラスチックハウスⅣ類(乙) (鉄骨中)		31	51	58,351	695,932	570,660
プラスチックハウスⅤ類 (鉄骨上)		15	24	12,253	192,265	166,047
プラスチックハウスⅥ類 (雨よけ施設等)		12	33	8,596	26,151	24,124
プラスチックハウスⅦ類 (多目的ネットハウス)		10	17	43,266	16,593	15,407
計		(実) 1,033 (延) 1,251	2,838	979,155	5,067,663	4,370,950

施設区分	項目	共済掛金 A 円	農家負担掛金 円	保険料 B 円	交付金 円	手持掛金 A-B 円
ガラス室Ⅰ類 (木造)		8,854	4,427	981	3,446	7,873
ガラス室Ⅱ類 (鉄骨)		1,832,814	1,080,809	92,499	659,506	1,740,315
プラスチックハウスⅠ類 (木竹)		20,659	10,424	2,348	7,887	18,311
プラスチックハウスⅡ類 (パイプ)		46,493,202	24,908,591	16,278,099	5,306,512	30,215,103
プラスチックハウスⅢ類 (鉄骨下)		686,440	373,957	181,152	131,331	505,288
プラスチックハウスⅣ類(甲) (鉄骨中)		1,699,204	927,718	74,269	697,217	1,624,935
プラスチックハウスⅣ類(乙) (鉄骨中)		1,260,634	650,155	64,476	546,003	1,196,158
プラスチックハウスⅤ類 (鉄骨上)		164,197	99,376	9,190	55,631	155,007
プラスチックハウスⅥ類 (雨よけ施設等)		119,313	66,491	29,256	23,566	90,057
プラスチックハウスⅦ類 (多目的ネットハウス)		157,573	93,522	6,992	57,059	150,581
計		52,442,890	28,215,470	16,739,262	7,488,158	35,703,628

【被害および評価の概要】

令和5年1月に県内東部を中心に大雪が降り、パイプハウス等に被害が発生した(被害34棟、支払共済金8,336,096円)。また、台風、突風及び施設内農作物のその他気象状の原因(高温障害)を含め、109棟(対前年比121.1%)、支払共済金17,395,477円(対前年比88.5%)となった。

施設区分別被害状況

施設区分	項目	組合員数 人	棟数 棟	被害額 円	附帯施設数 基
ガラス室Ⅰ類 (木造)		—	—	—	—
ガラス室Ⅱ類 (鉄骨)		2	2	4,870,897	—
プラスチックハウスⅠ類 (木竹)		—	—	—	—
プラスチックハウスⅡ類 (パイプ)		64	95	13,902,402	1
プラスチックハウスⅢ類 (鉄骨下)		2	3	397,587	—
プラスチックハウスⅣ類(甲) (鉄骨中)		2	2	60,586	—
プラスチックハウスⅣ類(乙) (鉄骨中)		1	2	226,174	—
プラスチックハウスⅤ類 (鉄骨上)		—	—	—	—
プラスチックハウスⅥ類 (雨よけ施設等)		4	5	2,054,884	—
プラスチックハウスⅦ類 (多目的ネットハウス)		—	—	—	—
計		(実) 75 (延) 85	109	21,512,530	1

施設区分	項目	支払共済金 円	保険金 円	支払共済金 共済金額 %
ガラス室Ⅰ類 (木造)		—	—	—
ガラス室Ⅱ類 (鉄骨)		3,896,717	—	0.35
プラスチックハウスⅠ類 (木竹)		—	—	—
プラスチックハウスⅡ類 (パイプ)		11,215,903	4,000,607	0.51
プラスチックハウスⅢ類 (鉄骨下)		339,460	—	0.35
プラスチックハウスⅣ類(甲) (鉄骨中)		48,468	—	0.03
プラスチックハウスⅣ類(乙) (鉄骨中)		180,939	—	0.03
プラスチックハウスⅤ類 (鉄骨上)		—	—	—
プラスチックハウスⅥ類 (雨よけ施設等)		1,713,990	900,181	7.10
プラスチックハウスⅦ類 (多目的ネットハウス)		—	—	—
計		17,395,477	4,900,788	0.40
年間超過損害保険金		—	—	—
合計		17,395,477	4,900,788	0.40

※支払共済金は、令和4年度に支払った令和3年度事故分共済金を含む。

(支払)

区分	項目	支払年月日	実支払共済金 円	共済金支払財源	
				保険金 円	手持共済掛金充当額 円
令和4年度		令和4年5月25日～ 令和5年3月31日	17,395,477	4,900,788	12,494,689

区分	項目	共済金支払財源			実支払共済金 共済金 %
		法定積立金充当額 円	特別積立金充当 円	その他 円	
令和4年度		0	0	0	100.0

## 6 損害防止状況

### ア 農作物共済

農作物共済事業の損害防止については、下記のとおり獣害防止に努めた。

(ア) 獣害の防止対策については、関係機関と連携して取り組んでいる。防護柵の増設等により被害の軽減は認められるものの、サル・シカ・イノシシ等による農作物への被害が見られており、減収・品質低下・耕作放棄などの問題が発生している。

これらの野生動物から農作物被害を未然に防止するため、農業組合等が実施する獣害対策への支援を行っている。助成対象としては1つの農業組合等が対象となり40,400円を交付した。

### イ 家畜共済

共済事故を未然予防、損害拡大抑制により畜産農家の経営安定を図るため、事業費の6割を国が負担する特定損害防止事業と組合独自の一般損害防止事業を実施している。家畜診療所では多種多様化する畜産農家の損害を分析し、農家ニーズにあった損害防止を行っている。令和4年度の特定損害防止事業費は、144万円、一般損害防止費は、297万円であった。

実施種目		対象頭数・回数 頭(回)	経費 円	摘要
特定損害防止		171頭	1,436,320	乳用牛で周産期疾患対策を実施。肉用牛で呼吸器疾病対策を実施。
一般損害防止	予防衛生措置	11,432頭	2,290,469	乳用牛疾病対策として生菌製剤、ビタミン剤、肉用牛・子牛疾病対策として生菌製剤、寄生虫対策製剤を配布。
	飼養管理指導	7,401頭	680,013	乳・肉用牛の代謝プロファイルテスト、乳用牛の乳房炎起因菌同定と、子牛の呼吸器病対策検査、並びに乳用牛、肉用繁殖牛の繁殖検診を実施。
	講習会 検討会	15回	-	湖西畜産情報連絡会(西部)、農家ごとの飼養管理検討会等を実施。

## 7 任意共済関係

### 【事業概要】

建物共済については「安心の未来」拡充運動と連携し、役職員一丸となって継続加入の推進および臨時費用特約、小損害実損填補特約の付帯加入推進により補償の充実を図った。引き続きコロナ禍により十分な対面推進が行えなかったが、農家建物49,196棟(対前年比95.9%)、農家建物共済金額69,443,243万円(対前年比95.6%)の引受結果となった。

農機具損害共済については、引受台数8,721台(対前年比97.4%)、引受共済金額2,803,940万円(対前年比98.8%)と共済金額、台数ともに減少した。

建物共済の事故については、令和3年12月から令和4年2月にかけて県北部を中心に断続的に降った大雪と令和5年1月の雪による被害が、被害建物686棟(全体の75.0%)、支払共済金228,310,536円(全体の78.2%)となった。その他主な被害としては落雷と全焼2件を含む火災による被害であった。

農機具共済の事故については、事故台数235台(対前年比95.5%)、支払共済金は68,006,914円(対前年比147.6%)と前年より増加した。

収容農産物補償特約については、継続分のみ引受となり、前年同様の加入となった。

#### ① 建物共済関係

##### ア 引受

##### (a) 農家建物共済引受状況

区分	加入棟数 (棟)	加入総共済金額 (万円)	共 済 掛 金			一棟当たり 平均 共済金額 (万円)	再共済掛金及び 任意保険料 (円)	再共済手数料 及び 保険手数料 (円)
			純共済掛金 (円)	賦課金 (円)	計 (円)			
火災	35,744	53,656,711	205,624,120	167,917,039	373,541,159	1,501	再共済割合	
総合	13,452	15,786,532	265,074,389	90,252,397	355,326,786	1,174	地震部分 50% 地震以外 30%	
合計	49,196	69,443,243	470,698,509	258,169,436	728,867,945	1,412	再共済手数料 掛金率における 賦課金割合 -4.5%	

##### (b) 用途別引受状況

用途	棟数 (棟)	加入共済金額 (万円)
住宅	32,411	53,392,229
納屋・物置・ 農作業場等	7,290	3,702,653
倉庫・土蔵	2,256	1,262,834
公民館・集会所	1,991	3,512,465
その他	5,248	7,573,062
合計	49,196	69,443,243

## (c) 収容農産物特約引受状況

区分	加入数 (口)	加入 総支払 限度額 (万円)	共 済 掛 金			一口当たり 平均支払 限度額 (万円)	再共済掛金 及び 任意保険料 (円)	再共済手数料 及び 保険手数料 (円)
			純共済掛金 (円)	賦 課 金 (円)	計 (円)			
総 合	62	6,200	130,200	55,800	186,000	100	再共済割合 30%	再共済手数料 25.50%
合 計	62	6,200	130,200	55,800	186,000	100	55,800	14,220

## イ 事故

## (a) 農家建物共済事故状況

区 分		事 故 棟 数 (棟)	加入総共済金額 (イ) (万円)	支払共済金 (ロ) (円)	再共済金及び 任意保険金 (円)	被 害 率 (ロ)/(イ) (%)
火災	火 災	4	53,656,711	17,582,718	5,274,815	0.00328
	拡張担保	101		8,267,505	2,480,209	0.00154
	計	105		25,850,223	7,755,024	0.00482
総合	自然災害	741	15,786,532	240,714,610	72,214,041	0.15248
	火 災	2		19,695,407	5,908,621	0.01248
	拡張担保	67		5,724,485	1,717,326	0.00363
	計	810		266,134,502	79,839,988	0.16858
小 計		915	69,443,243	291,984,725	87,595,012	0.04205

## (b) 農家建物共済原因別事故発生状況

原因別	事故棟数 (棟)	加入総共済金額 (イ) (万円)	支払共済金 (ロ) (円)	再共済金及び 任意保険金 (円)	被害率 (ロ)/(イ) (%)
類焼	1		3,301,610	990,483	0.00048
落雷	61		7,673,957	2,302,157	0.00111
物体の飛来等	4		318,269	95,478	0.00005
風害(突風等)	25		7,962,846	2,388,842	0.00115
電気配線等の漏電等	1		16,393,797	4,918,138	0.00236
泥棒による毀損	2		78,339	23,500	0.00001
調査中(原因不明)	3		5,582,718	1,674,815	0.00080
第三者行為	1		24,750	7,425	0.00000
台風	30		4,441,228	1,332,355	0.00064
雪害	686		228,310,536	68,492,844	0.03288
水道管凍結	44		1,457,441	437,226	0.00021
車両の当て逃げ等	2		393,431	118,028	0.00006
建物内部の車両衝突	4		503,459	151,037	0.00007
給排水設備	9		402,560	120,763	0.00006
外部からの物体の落下等	41		3,139,784	941,921	0.00045
ストーブ	1		12,000,000	3,600,000	0.00173
合計	915	69,443,243	291,984,725	87,595,012	0.04205

## (c) 収容農産物特約事故状況

区分	事故数 (ロ)	加入総共済金額 (イ) (万円)	支払共済金 (ロ) (円)	再共済金及び 任意保険金 (円)	被害率 (ロ)/(イ) (%)
総合	自然災害	-	-	-	-
	火災	-	-	-	-
	拡張担保	-	-	-	-
	計	0	-	0	-
小計	0	6,200	0	0	0.00000

## (d) 収容農産物特約事故発生状況

原因別	事故数 (ロ)	加入総共済金額 (イ) (万円)	支払共済金 (ロ) (円)	再共済金及び 任意保険金 (円)	被害率 (ロ)/(イ) (%)
	-	-	-	-	-
合計	0	6,200	0	0	0.00000

② 農機具損害共済関係

ア 引受

項 目	加 入 台 数 (台)	加 入 共 済 金 額 (万円)	共 済 掛 金			1台当たり 共 済 金 額 (万円)	
			純 共 済 掛 金 (円)	事 務 費 賦 課 金 (円)	計 (円)		
損 害 共 済	8,721	2,803,940	98,601,956	30,080,773	128,682,729	322	
内 訳	火 災 共 済	838	150,728	1,549,836	823,694	2,373,530	180
	総 合 共 済 (普通物件)	7,810	2,646,137	96,254,007	29,063,454	125,317,461	339
	総 合 共 済 (特殊物件)	73	7,075	798,113	193,625	991,738	97

イ 事故

(a) 共済金支払状況

項 目	事故台数 (台)	加 入 共 済 金 額 (イ) (万円)	支 払 共 済 金			被 害 率 (ロ)/(イ) (%)	
			火 災 (円)	接 触 等 の 他 (円)	計 (ロ) (円)		
損 害 共 済	235	2,803,940	5,082,500	62,924,414	68,006,914	0.2425	
内 訳	火 災 共 済	1	150,728	—	80,569	80,569	0.0053
	総 合 共 済 (普通物件)	231	2,646,137	5,082,500	62,641,426	67,723,926	0.2559
	総 合 共 済 (特殊物件)	3	7,075	—	202,419	202,419	0.2861

(b) 原因別事故発生状況

原因別 \ 項 目	事故台数 (台)	加 入 共 済 金 額 (イ) (万円)	支 払 共 済 金 (ロ) (円)	被 害 率 (ロ)/(イ) (%)	備 考	
衝突	8	2,803,940	2,622,825	0.0094		
接触	158		25,830,887	0.0921		
墜落	7		3,858,079	0.0138		
転覆	9		21,532,685	0.0768		
異物の巻き込み	33		5,344,736	0.0191		
物の落下・飛来	14		1,296,213	0.0046		
雪害	2		421,322	0.0015		
火災	2		5,082,500	0.0181		
落雷	2		2,017,667	0.0072		
計	235		2,803,940	68,006,914	0.2425	

③ 保管中農産物補償共済関係

ア 引受

(a) 引受状況

区 分	加 入 口 数 (口)	加 入 総 支 払 限 度 額 (万円)	共 済 掛 金			保 険 料 (円)
			純 保 険 料 (円)	賦 課 金 (円)	計 (円)	
Aタイプ	31	3,100	54,250	23,250	77,500	57,722
Bタイプ	5	500	22,750	9,750	32,500	24,210
合 計	36	3,600	77,000	33,000	110,000	81,932

(b) 種類別引受状況

用 途	口 数 (口)	加入 支 払 限 度 額 (万円)
米	36	3,600
合 計	36	3,600

イ 事故

(a) 事故状況

区 分	事故口数 (口)	加入総支払限度額 (イ) (万円)	支 払 共 済 金 (ロ) (円)	保 険 金 (円)	被 害 率 (ロ)/(イ) (%)
Aタイプ	-	-	-	-	-
Bタイプ	-	-	-	-	-
小 計	0	3,600	0	0	0.00000

## 8 農機具更新共済関係

### 【事業概要】

農機具更新共済については、平成27年度から収支改善を図る観点により新規引受を中止したことから、昨年度末保有の39台、共済金額12,777万円、減価共済金額11,899万円について共済責任期間を満了し全ての引受を終了した。

事故等については、2台、共済金139,399円、減価共済金については、39台、11,899万円の支払いであった。

### ア 引受

#### (a) 令和2年度新規分(ア)

項目	加入台数 (台)	加入 共済金額 (万円)	減価 共済金 (万円)	共 済 掛 金			
				純 共 済 掛 金		事務 費課 金 (円)	計 (円)
				損害部分 (円)	減価部分 (円)		
更新共済	—	—	—	—	—	—	—
内 訳	普通物件	—	—	—	—	—	—
	特殊物件	—	—	—	—	—	—

#### (b) 過年度引受保有分(イ)

項目	加入台数 (台)	加入 共済金額 (万円)	減価 共済金 (万円)	共 済 掛 金			
				純 共 済 掛 金		事務 費課 金 (円)	計 (円)
				損害部分 (円)	減価部分 (円)		
更新共済							
内 訳	普通物件	—	—	—	—	—	—
	特殊物件	—	—	—	—	—	—

#### (c) 年度末総保有分

項目	加入台数 (台)	加入 共済金額 (万円)	減価 共済金 (万円)	共 済 掛 金			
				純 共 済 掛 金		事務 費課 金 (円)	計 (円)
				損害部分 (円)	減価部分 (円)		
小計 [(ア)+(イ)]	—	—	—	—	—	—	—
内 訳	普通物件	—	—	—	—	—	—
	特殊物件	—	—	—	—	—	—

イ 事故

(a) 共済金支払状況

項 目	事故台数 (台)	総共済金額 (イ) (万円)	支 払 共 済 金			被 害 率 (ロ)/(イ) (%)
			火 災 (円)	接 触 等 の 他 (円)	計 (ロ) (円)	
更 新 共 済			—			
内 訳	普 通 物 件	—	—	—	—	—
	特 殊 物 件	—	—	—	—	—

(注) 総共済金額欄については、年度末保有分を計上した。  
支払共済金額は、全損事故による支払減価共済金 0円含む。

(b) 農機具更新共済原因別事故発生状況

原因別	項 目	事故台数 (台)	総共済金額 (イ) (万円)	支 払 共 済 金 (ロ) (円)	被 害 率 (ロ)/(イ) (%)	備 考
接触						
	異物の巻き込み					
	計					

(c) 農機具更新共済減価共済金支払状況

項 目	平成27年度 責任期間7年	
	台数 (台)	減 価 共 済 金 (万円)
更 新 共 済		
内 訳	普 通 物 件	—
	特 殊 物 件	—

項 目	合 計		解 約		
	台 数 (台)	減 価 共 済 金 (万円)	台 数 (台)	共 済 金 額 減 価 共 済 金 額 (万円)	解 約 返 還 金 (円)
更 新 共 済					
内 訳	普 通 物 件				
	特 殊 物 件	—			

(注) 解約返還金の金額中、損害部分からの返還金 0円含む。